

心理学専攻

募集人員：修士課程10名／博士後期課程3名
 開講形態：昼間開講（一部夜間開講） キャンパス：市ヶ谷
 主な進路：教職、公務員（家庭裁判所調査官、各県心理職、各県警科
 学捜査研究所法務省）、発達支援情報通信リサーチ会社、
 博士後期課程への進学、大学や研究機関など



心の機能を認知と発達を柱に考える、とある授業風景 —なぜ、2、3歳のときの記憶って思い出せないのか—

特定の領域に偏らず、心理学のさまざまな領域を学びます。そのため、知覚・睡眠・発達・発達臨床・言語・教育・行動分析・犯罪・社会・記憶・学習・音声学・スポーツ・健康といった多様な領域のエキスパートによる集団指導体制をとっています。また、実験・検査・面接、調査や統計など、心理学の研究法に関する技術を修得できるようにカリキュラムを編成しています。心理学の研究法を修得しながら高度なコンピュータ・リテラシー、文章表現力、プレゼンテーション能力が身に付きます。さらに、所定の条件を満たすことにより学校心理士あるいは学校心理士補の受験資格を取得できます。学内のライフスキル教育研究所とも連携し、エビデンスに基づいた研究実践を展開します。

主なアドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)	主なカリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)	主なディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)
<ul style="list-style-type: none"> ○心理学研究への強い意欲と心理学の各分野における学部卒業レベルの知識。 ○修士論文・博士論文研究の実施と論文執筆のために必要となる英文読解力や批判的読解力、論理的思考力、データ分析力、プレゼンテーション能力、およびITリテラシー。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年に2回の研究発表会では専任教員全員で集団指導。 ○グループ討論や発表機会、情報技術を活用する課題の設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観察・実験・調査を通して、人の認知や発達について科学的に理解できる。 ○国内外の先行研究や社会的要請をふまえ、自ら課題を設定できる。 ○研究・学習目標を達成するために他者と協働でき、成果を的確に他者に伝えられる。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
高橋 敏治 教授	生理心理学、睡眠科学、精神保健学	時差症候群とシフト勤務に関する精神作業能力やP300の変化、サーカディアンリズム睡眠障害	精神保健特論、精神生理特論、精神生理特殊講義
吉村 浩一 教授	知覚・認知心理学、心理学研究法	逆さめがね着用などによる変換された視覚世界への順応過程の研究、心理学研究法、アニメーションにおける動きの研究	知覚運動論演習、心理研究法特論、知覚認知心理学特殊講義
渡辺 弥生 教授	発達心理学、発達臨床心理学、学校心理学	社会性や道徳性の発達メカニズムの解明・いじめなどの対人関係における問題の予防と心理教育プログラムの開発・展開	発達心理特論、学校カウンセリング演習、発達心理学特殊講義
福田 由紀 教授	言語心理学、教育心理学	浅い処理から見た文章理解モデル、コミュニケーションにおける言語活動の役割	言語心理特論、言語心理演習、言語心理学特殊講義
島宗 理 教授	行動分析学、産業組織心理学	パフォーマンス・マネジメント、インストラクショナルデザイン、組織行動マネジメントや消費者行動に関する研究	発達行動特論、学校カウンセリング特論、行動分析学特殊講義
藤田 哲也 教授	認知心理学、教育心理学	人間の記憶を中心とした認知メカニズムに関する基礎研究と、学習場面における動機づけと学習方略との関連を中心とした教育への応用研究	学習心理特論、学習指導特論、認知学習過程演習、大学教員心理学基礎講座
越智 啓太 教授	犯罪心理学、社会心理学	犯罪心理学、特に犯罪捜査における心理学の応用についての研究	社会心理特論、犯罪心理特論、犯罪心理学特殊講義
田嶋 圭一 教授	音声学、言語学、言語心理学、認知科学	音声言語の知覚・産出・学習に関する実証的研究	音声言語科学演習、音声言語科学特論、心理学英語論文作成指導
荒井 弘和 教授	スポーツ心理学	アスリートの支援、ソーシャルマーケティングによる生涯スポーツの普及	スポーツ心理特論

[2018年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

主要な研究設備

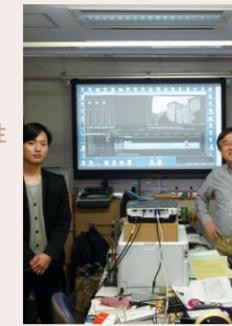
- NIRS (近赤外分光法 脳血流量測定装置)：全脳型1台、前頭型2台。
- 脳波計：据置型1台、携帯型2台、P300などの事象関連電位測定。
- ポリグラフ：脳波、筋電図、呼吸運動、心電図、指尖脈波、耳栓型温度、皮膚活動電位などが測定可能。
- その他、サーモグラフィ、アイカメラ、呼吸代謝測定機器、事象関連電位や周波数、3次元動作や自律神経系の解析ソフト、防音室など。

研究室紹介

吉村 浩一 教授

錯覚や見間違いも、見ることの法則性が生み出す心の法則

古くて新しい問題を知覚することから始まる人の認知の解明



「認知」とは、身の周りにあるものを知覚することから始まり、それを記憶し、それらを材料に思考・推理していく心の働きです。私たちの心理学専攻では、この「認知」を、もう一つの柱である「発達」とともに、心理学にとって重要で中心的な研究対象として、さまざまな角度から解明することを目指しています。中でも「知覚」は、身の周りの映像や音、香りや振動などの物理的刺激が心に届く入口部分を担当する研究分野で、科学的検討が行いやすい領域です。例えばアニメーションは、静止画を次々に素早く見せているのに滑らかな動きと知覚されます。物理的事実と心理的知覚物の間にあるこのようなズレを科学的にかつ法則的に捉えることを私たちは目指しています。

※本専攻には、このほかに精神生理・知覚・言語・音声・発達・犯罪・行動分析・スポーツなどの分野を扱う、全部で9の研究室があります。

学生・修了生の声

太田 碧

博士後期課程 在学中

数少ない心理学的なアニメやキャラクターの研究成果を、実際のアニメ制作などの現場に還元したい



私の研究

私は、アニメーションキャラクターについての研究をしています。特にキャラクターの顔の魅力や、実際の人間との違いに注目し、認知に差があるのかを実験と統計を用いて明らかにする研究に取り組んでいます。現在、アニメやキャラクターについての心理学的研究は少ないため、研究において得られる結果は、この分野においてとても有益であると考えています。

将来の目標

研究を続けていきたいと考えています。心理学的なアニメやキャラクターの研究はまだまだ数が少ないので、数を積み重ねて新たな発見をしていきたいです。また、研究の成果を実際の現場に生かす形に変化させていくことが目標です。魅力的なキャラクターの作成や、実写化に際して原作の魅力を損なわないようなシステムの開発を行いたいと考えています。

研究テーマ

アニメーションキャラクターの顔、魅力について

設置科目 [修士課程]

- 心理学研究法演習Ⅰ/Ⅱ (各1)
- 学習心理特論 (2)
- 音声言語科学特論 (2)
- 社会心理特論 (2)
- 読書心理特論 (2)
- 教育心理特論 (2)
- 犯罪心理特論 (2)
- 学習指導特論 (2)
- 知覚運動論演習 (2)
- 音声言語科学演習 (2)
- 精神生理特論 (2)
- 認知学習過程演習 (2)
- 臨床心理特論 (2)
- 発達心理特論 (2)
- 障害児心理特論 (2)
- 人格心理特論 (2)
- 言語心理特論 (2)
- 精神保健特論 (2)
- 学校カウンセリング演習 (2)
- 発達行動特論 (2)
- 生徒指導特論 (2)
- 言語心理演習 (2)
- 学校カウンセリング特論 (2)
- 心理教育アセスメント特論 (2)
- 心理教育アセスメント演習 (2)
- スポーツ心理特論 (2)
- 健康心理特論 (2)
- 心理研究法特論 (2)
- 応用心理統計Ⅰ/Ⅱ (各2)
- 言語分析哲学研究Ⅱ 1・2 (各2)
- 古代哲学史研究Ⅱ 1・2 (各2)
- 近代倫理学史研究Ⅱ 1・2 (各2)
- 実践哲学研究Ⅱ 1・2 (各2)
- 科学哲学研究Ⅱ 1・2 (各2)
- 超越論哲学研究Ⅱ 1・2 (各2)

設置科目 [博士後期課程]

- 心理学特殊研究Ⅰ/Ⅱ
- 大学教員心理学基礎講座
- 心理学英語論文作成指導
- 知覚認知心理学特殊講義
- 精神生理学特殊講義
- 発達心理学特殊講義
- 言語心理学特殊講義
- 行動分析学特殊講義
- 犯罪心理学特殊講義

[2018年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修了生の研究テーマ

- ・不安喚起の差異からみた入眠期の脳波・自律神経活動による精神生理学的検討
- ・子どもの発達に関する知識が育児ストレスに及ぼす影響
- ・商品名に含まれる音相の違いが購買意欲、商品画像の選択に与える影響
- ・人物同定再認における幸福願位性の生起因
- ・再認の二過程説による検討
- ・漢字・ひらがな・カタカナの書き分けと印象の違いについて
- ・空間的運動情報が時間知覚に与える影響
- ・S効果における等速運動仮説の検証
- ・オノマトへの感覚関連性および表記形態が意味理解に与える影響
- ・感覚情報を測定する評価用語への応用を目指して
- ・パートナーに対する暴力のメカニズム
- ・Dark Triadと生活史戦略による個人差に対するアプローチ
- ・アニメーションによる物語理解過程の心理学的検討